

# ESMPRO/AC Advance マルチサーバオペション Ver3.3 (Linux 版) アップデート手順書

## 目次

第1章	はじめに.....	2
1. 1	機能強化内容 .....	2
第2章	アップデートの適用が必要なバージョン.....	3
2. 1	Management Consoleを使用した確認方法 .....	3
2. 2	Management Consoleがない環境の確認方法 .....	5
第3章	アップデートの準備.....	6
第4章	アップデート手順.....	7
4. 1	クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象) .....	7
4. 1. 1	Management Console を使用した場合 .....	7
4. 1. 2	Management Console がない環境 .....	8
4. 2	Updateの適用 .....	9
4. 2. 1	ManagementConsole を使用したUpdate.....	9
4. 2. 2	ManagementConsole がない環境のUpdate.....	11
4. 3	クラスタ環境の場合のクラスタ再開 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象) .....	12
4. 3. 1	Management Console を使用した環境の場合 .....	12
4. 3. 2	Management Console を使用しない環境の場合 .....	13
4. 4	更新・追加ファイル一覧 .....	14
第5章	注意事項.....	15
5. 1	共通 .....	15
5. 2	SUSE Linux Enterprise Server について .....	16

# 第 1 章 はじめに

この手順書は 以下の製品に対応したアップデートの手順書です。

ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション Ver3.3 (Linux版)	
1 ライセンス	UL4008-017
ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション Ver3.3 (Linux版)	
4 ライセンス	UL4008-027

本アップデートは、以下の障害吸収／機能強化のアップデートです。

## 1. 1 機能強化内容

項番	機能強化内容
1	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3
2	AC Management Console機能によるWakeOnLan電源ON処理において連動端末のサーバ起動が正常に行われない場合がある問題を修正。
3	ESMPRO/ACと連携するソフトウェア(CLUSTERPRO、ESMPRO/JMSS) やESMPRO/ACのシャットダウンコマンド、AC GUI等からシャットダウン要求が発生した時に、シャットダウンリブートを行われる場合がある問題を修正。
4	CLUSTERPROによるクラスタ環境において、自動運転によるシャットダウンが正常に行われない場合がある問題を修正。
5	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> Miracle Linux Standard Edition Version 3 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 (x86/EM64T)
6	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> Red Hat Enterprise Linux 5(x86/EM64T) VMware ESX Server 3.5 Citrix XenServer Enterprise Edition 4.0
7	新OS対応 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> SUSE Linux Enterprise Server 10
8	新OS対応 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> SUSE Linux Enterprise Server 11

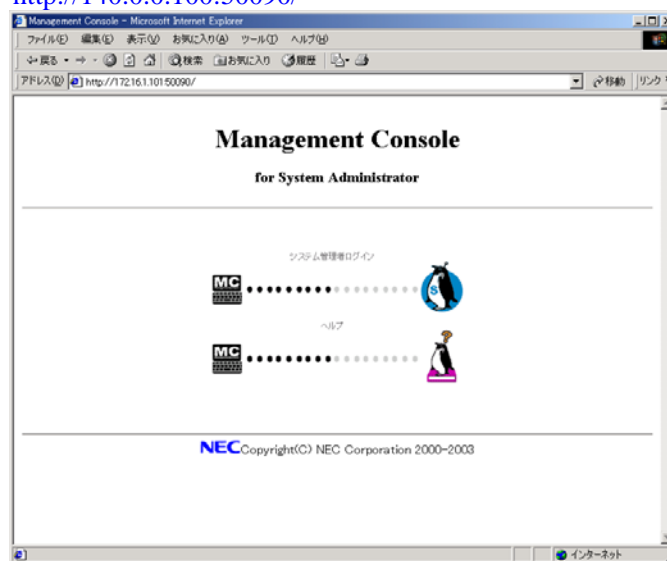
## 第2章 アップデートの適用が必要なバージョン

以下の手順でサーバの ESMPRO/ AC Advance マルチサーバオプション Ver3.3（以下「ACAM」と称します）のバージョンを確認してください。

### 2. 1 Management Consoleを使用した確認方法

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。（インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合）

<http://140.0.0.100:50090/>



※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

(2) 以下の手順でACAMのUpdateのバージョンを確認します。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacam\_update-3.3x-1.0」を探し、3. 3 7以上がインストールされていないことを確認してください。

Applications/System	<a href="#">esmac-advance-multi-3.30-1.0</a>	ESMPRO/AC Advance MultiServerOption (Linux)
Applications/System	<a href="#">esmacam_update-3.31-1.0</a>	ESMPRO/AC Advance MultiServerOption Update
System Environment/Daemons	<a href="#">esound-0.2.28-5.1</a>	Allows several audio streams to play on a single audio device.

(3) 以前の Update がすでにインストール済みの場合は、以下の手順により以前のバージョンを削除してください。

- ①上記の「パッケージ一覧」から「esmacam\_update-3.3x-1.0」のパッケージを選択します。
- ②表示中の「アンインストール」を選択すると削除されます。
- ③「パッケージ一覧」から「esmacam\_update-3.3x-1.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。

## 2. 2 Management Consoleがない環境の確認方法

コマンドラインからESMPRO/AC Advanceマルチサーバオプションをインストールする場合、以下の例のようにパッケージ依存性のエラーが発生しインストールに失敗することがあります。

(Red Hat Enterprise Linux ES/AS 3環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libnewt.so.0.50 is needed by esmac-advance-multi-3.32-1.0

libslang.so.1 is needed by esmac-advance-multi-3.32-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpmコマンドの引数に「--nodeps」オプションを付加してインストールを実施してください。

```
# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名
```

(1) サーバにrootでログインします。

(2) rpmコマンドを実行します。

```
rpm -q esmacam_update
```

rpm の実行結果が表示されます。

実行結果を確認し、**3. 3 7**以上のバージョンがインストールされていないことを確認してください。

(rpm コマンドの実行結果の例 1)

```
package esmacam_update is not installed
```

(rpm コマンドの実行結果の例 2)

```
esmacam_update-3.31-1.0
```

(3) インストールされている場合、rpm コマンドを使用して削除します。

```
rpm -e esmacam_update
```

## 第3章     アップデートの準備

ダウンロードしたファイルを解凍すると、以下のファイルが作成されます。

esmacam_update-3.37-1.0.i386.rpm	アップデートモジュール
ESMACAM-33LX-UP201011.pdf	アップデート手順書 (pdf ファイル)

esmacam\_update-3.37-1.0.i386.rpm ファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体または NFS 等を経由して、対象の Linux サーバにコピーしてください。

## 第4章 アップデート手順

ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた Linux サーバに本アップデートを適用する手順を説明します。なお、ここではアップデートモジュール(esmacam\_update-3.37-1.0.i386.rpm)をフロッピー媒体にコピーした場合を例に説明します。

### 4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象)

Updateを行う環境に CLUSTERPRO for Linux Ver3.0 未満がインストールされている場合には、以下の手順で一旦 CLUSTERPRO を停止させてください。

その後、ACAM の Update を行ってください。

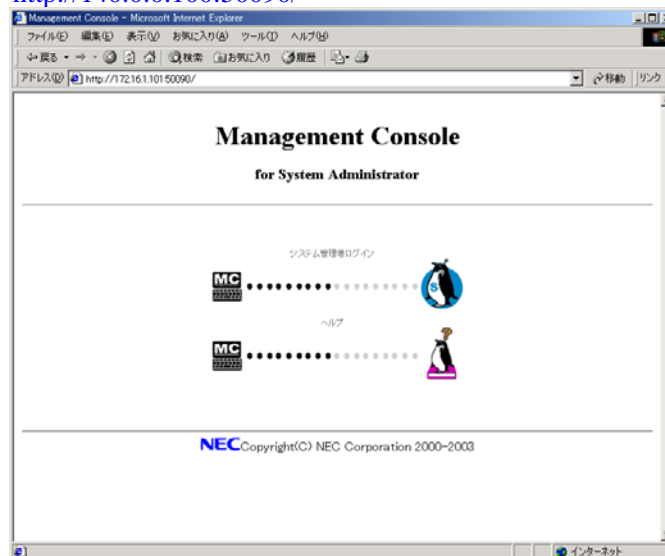
※CLUSTERPRO Ver3.0 以上またはCLUSTERPRO X 1.0 以上の場合、本手順は不要です。

「4. 2 Updateの適用」へ進んでください。

#### 4. 1. 1 Management Console を使用した場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>

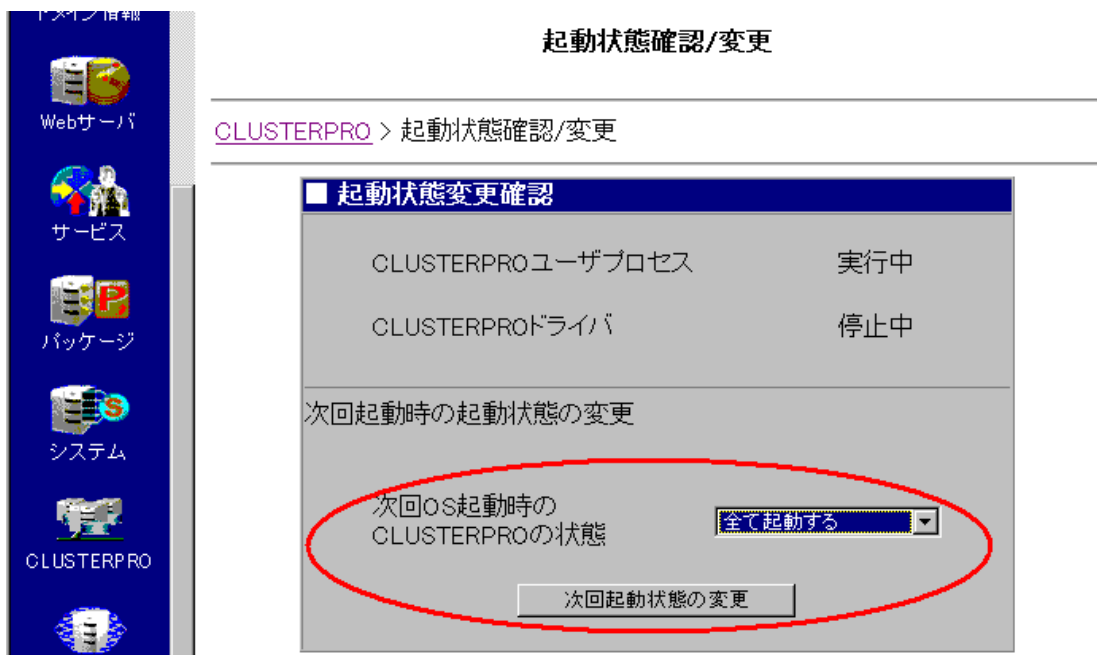


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認/変更」を選択します。
- ③「起動状態確認/変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動しない」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

#### 4. 1. 2 Management Console がない環境

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

```
/etc/clusterpro/armstartup -manual
```

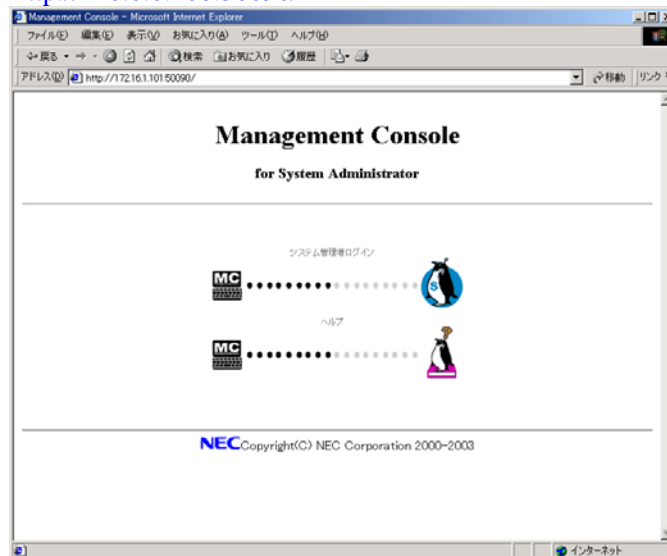
(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

## 4. 2 Updateの適用

### 4. 2. 1 ManagementConsole を使用した Update

- (1) ファイル (esmacam\_update-3.37-1.0.i386.rpm) をコピーしたFD媒体をインストールするLinuxサーバのFDドライブに挿入します。
- (2) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>



※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

- (3) 以下の手順でFDをファイルシステムにマウントしてください。

①左側の「ディスク」を選択します。



ディスク一覧			
	デバイス名	総容量 (MB)	パーティション数
詳細	/dev/hda	19128	4
詳細	/dev/cdrom	-	-
詳細	/dev/fd0	-	-

②「接続」ボタンを選択し、「接続中」になったことを確認します。

(4) Updateが未適用であることを確認してください。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacam\_update-3.3x-1.0」がない場合に、Updateをインストールしてください。

(5) 以下の手順でACAMのアップデートを行います。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」→「手動インストール」を選択します。
- ③「手動インストール」で、「ローカルディレクトリ指定」に「/mnt/floppy」と入力して「参照」ボタンを選択します。

※FDのマウントポイントについてはご使用の環境に合わせて適宜読み替えてください。



- ④「/mnt/floppy/esmacam\_update-3.37-1.0.i386.rpm」が表示されますので「追加」ボタンを選択します。



- ⑤「追加」を選択すると「インストールしてもよろしいですか？」と表示されますので、「OK」を選択してください。

(6) ACAMが、アップデートされたことを確認します。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「esmacam\_update-3.37-1.0」があることを確認します。

(7) 「/dev/fd0」の「切断」を実行してください。

- ①左側の「ディスク」を選択します。
- ②「/dev/fd0」の「切断」を選択します。

(8) 「Management Console」を終了してください。

#### 4. 2. 2 ManagementConsole がない環境の Update

- (1) ファイル (esmacam\_update-3.37-1.0.i386.rpm) をコピーしたFD媒体をインストールするLinuxサーバのFDドライブに挿入します。
- (2) root でログインしてください。
- (3) FD をマウントします。  
※FDのマウントポイントについてはご使用の環境に合わせて適宜読み替えてください。

```
mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
```

- (4) 以前のUpdateがインストールされているか確認します。

```
rpm -q esmacam_update
```

rpm の実行結果が表示されますので、実行結果を確認し、3. 3 7 未満の場合には以下のコマンドにてアンインストールします。

```
rpm -e esmacam_update
```

- (5) rpmコマンドを使用してインストールします。

```
rpm -ihv /mnt/floppy/esmacam_update-3.37-1.0.i386.rpm
```

- (6) FD をアンマウントします。

```
umount /dev/fd0
```

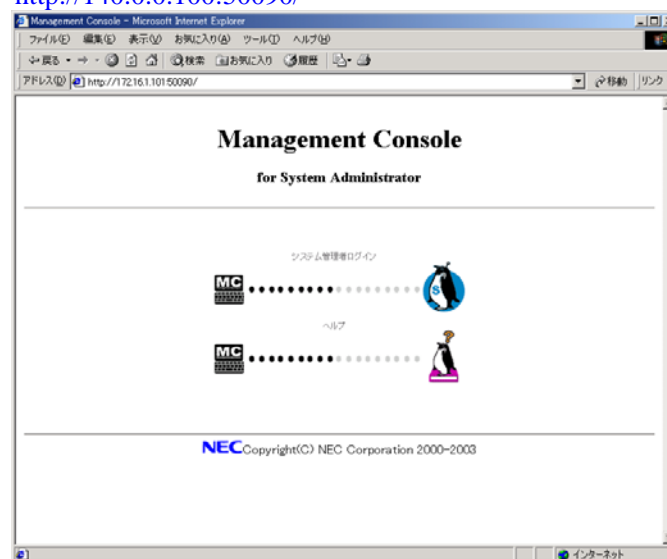
## 4. 3 クラスタ環境の場合のクラスタ再開 (CLUSTERPROVer3.0未満が対象)

「4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0 未満が対象)」にて CLUSTERPROを停止させた場合、Updateを行った後にCLUSTERPROを再開させてください。

### 4. 3. 1 Management Console を使用した環境の場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>

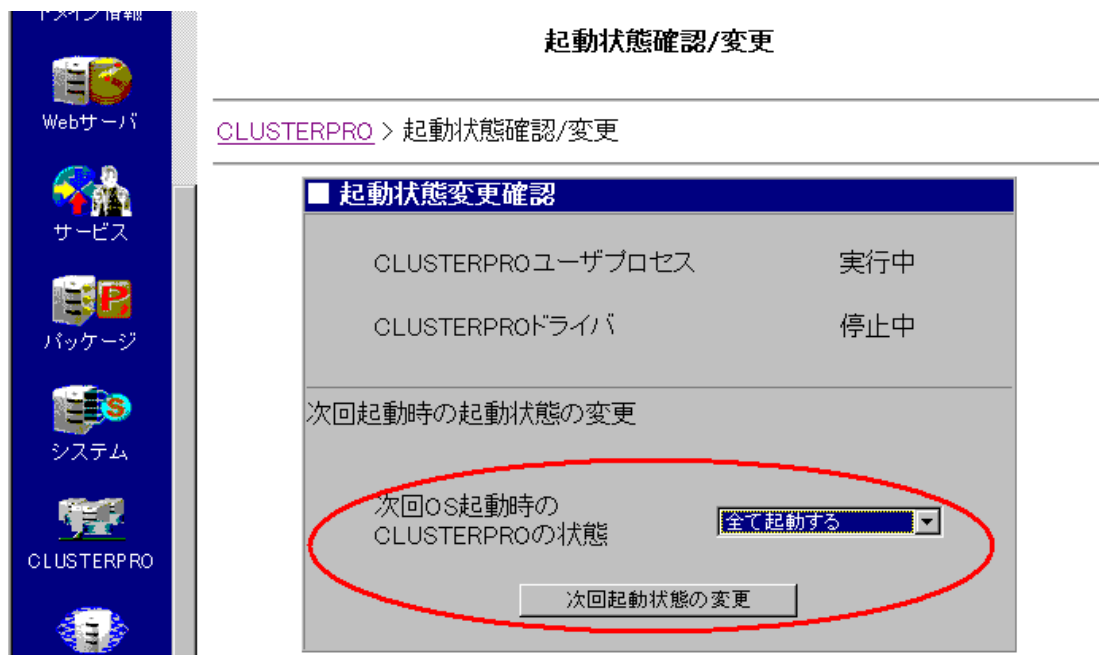


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認/変更」を選択します。
- ③「起動状態確認/変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動する」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

#### 4. 3. 2 Management Console を使用しない環境の場合

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

```
/etc/clusterpro/armstartup -auto
```

(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

## 4. 4 更新・追加ファイル一覧

### ■/usr/local/AUTORC/

-rwxrw-r--	1	root	root	20926	1 月	4	2005	acupslog
-rwxr-xr-x	1	root	root	71562	2 月	4	2003	amccmd
-rwxr-xr-x	1	root	root	329776	10 月	21	18:42	esmarcsv
-rwxr-xr-x	1	root	root	56514	12 月	13	2004	libpowoff.so.2
-rwxr-xr-x	1	root	root	802	5 月	7	2009	log_save.sh

### ■/usr/local/AUTORC/data/

-rwxr--r--	1	root	root	5586	12 月	27	2005	ac_euc.msg
-rwxr--r--	1	root	root	6909	12 月	27	2005	ac_utf8.msg

### ■/opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO\_ACEnterprise/

-rwxr-xr-x	1	root	root	75152	2 月	27	2004	amc.pl
-rwxr-xr-x	1	root	root	21529	3 月	1	2004	common.pl
-rwxr-xr-x	1	root	root	53146	3 月	2	2004	esmac.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	23873	3 月	4	2010	esmac.pl
-rwxr--r--	1	root	root	4898	3 月	4	2005	esmac_help.html
-rwxr-xr-x	1	root	root	786	5 月	18	2009	log_save.cgi
-rwxr--r--	1	root	root	1647	3 月	3	2005	outline_help.html
-rwxr--r--	1	root	root	1874	3 月	3	2005	schedule_help.html
-rwxr-xr-x	1	root	root	4405	2 月	23	2005	set_ini2.cgi
-rwxr--r--	1	root	root	987	3 月	3	2005	setjob_help.html
-rwxr--r--	1	root	root	418	1 月	16	2008	wbmc.rc

### ■/opt/nec/report/inf/

-rwxrw-r--	1	root	root	226	2 月	25	2003	EsmproAcamJpn
------------	---	------	------	-----	-----	----	------	---------------

### ■/opt/nec/report/table/

-rwxrw-r--	1	root	root	10748	2 月	24	2003	esmpoacam.tbl
------------	---	------	------	-------	-----	----	------	---------------

<SUSE Linux Enterprise Server 以外の場合>

### ■/etc/rc.d/init.d/

-rwxr-xr-x	1	root	root	9432	10 月	8	16:59	esmarcsv※
------------	---	------	------	------	------	---	-------	-----------

※ RedHat Linux 6.1/6.2J の OS 上で ESMPRO/AC Advance マルチサーバオペション Ver3.3 (Linux 版) を運用している環境において本アップデートを適用した場合、同ディレクトリに存在する「esmarcsv」のファイルサイズ、タイムスタンプは、以下のようになります。

-rwxr-xr-x	1	root	root	830	2 月	25	2005	esmarcsv
------------	---	------	------	-----	-----	----	------	----------

<SUSE Linux Enterprise Server の場合>

### ■/etc/init.d/

-rwxr-xr-x	1	root	root	9358	10 月	7	18:13	esmarcsv
------------	---	------	------	------	------	---	-------	----------

## 第5章 注意事項

### 5. 1 共通

- (1) 本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

- (2) LinuxモジュールのUpdateを行った後には、OSの再起動または、ACAMのサービス再起動が必要です。

(SUSE Linux Enterprise Server以外の場合)

```
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop
```

```
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

(SUSE Linux Enterprise Server の場合)

```
/etc/init.d/esmarcsv stop
```

```
/etc/init.d/esmarcsv start
```

- (3) 制御端末のESMPRO/ACサービスは、各サーバのホスト名、コンピュータ名を15文字まで認識します。このため、Linuxサーバに16文字以上のホスト名を設定されていると、制御端末から認識できません。その回避処理として、サーバのホスト名が16文字を越えていると、ESMPRO/ACサービスは、/etc/hostsに設定される15文字以内のエイリアス名を自ホスト名として認識します。16文字以上のホスト名が設定されている場合には、15文字以内のエイリアス名を/etc/hostsに登録してください。

- (4) 本Update適用後のACAMのアンインストール方法について

Linuxサーバへ本Update適用後、ACAMのアンインストールを行う場合、ACAMのアンインストール手順だけでは、Updateモジュールの削除ができません。このため、Update後にアンインストールを行う場合、

a) ACAM Update (本Update)

b) ACAM

を別々にアンインストールする必要があります。

また、この際にはACAM Updateを以下の手順で先にアンインストールしてください。

- a) ACAM Updateのアンインストール方法

<ManagementConsoleを使用したアンインストール>

→ 「パッケージ」

→ 「インストールされているパッケージの一覧」

→ 「esmacam\_update-3.3x-x.0」

→ 「アンインストール」

<ManagementConsoleがない環境のアンインストール>

```
rpm -e esmacam_update
```

- b) マルチサーバオプションのアンインストール方法

ACAMのセットアップカードを参照ください。

- (5) コマンドラインからESMPRO/AC Advanceマルチサーバオプションをインストールする場合、以下の例のようにパッケージ依存性のエラーが発生しインストールに失敗することがあります。

(Red Hat Enterprise Linux ES/AS 3環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libnewt.so.0.50 is needed by esmac-advance-multi-3.32-1.0

libslang.so.1 is needed by esmac-advance-multi-3.32-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpm コマンドの引数に「--nodeps」 オプションを付加してインストールを実施してください。

# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名

## 5. 2 SUSE Linux Enterprise Server について

SUSE Linux Enterprise Server にて ESM/PRO/AC Advance マルチサーバオプションを使用する場合、追加の注意事項があります。

- (1) 本体パッケージのインストール作業は製品添付のセットアップカードを参照して行ってください。なお、製品CD-ROMから本体パッケージをインストールする際、以下のエラーメッセージが表示されますが、無視してください。

esmarcsv: unknown service

- (2) 製品CD-ROMから本体パッケージをインストールした後、アップデートを適用せずにサーバを再起動しても、インストールした製品のACサービスが起動できません。

《対応処置》

上記記載のアップデートを適用することで、製品のサービスデーモンが正しく自動起動されるようになります。

- (3) CD-ROMから本体パッケージをインストールした後、アップデートを適用せずに本体パッケージのアンインストールを試みても、アンインストール操作が実施できません。

《対応処置》

上記アップデートを適用した後に、以下の順序でアンインストール作業を実施することで、本体パッケージのアンインストールが可能となります。

1. RPMコマンド(rpm -e)にてアップデートパッケージをアンインストール。

rpm -e esmacam\_update

2. RPMコマンド(rpm -e)にて本体パッケージをアンインストール。

rpm -e esmac-advance-multi

※注意

上記対応処置によるアップデートパッケージおよび本体パッケージのアンインストール実施後も以下のファイルが残ったままとなっています。お手数ですが、root権限にて手動削除をお願いします。

/etc/init.d/esmarcsv